



# Special Feature

加速する「バリュー・ネットワーキング」構想

## モノが流れるプロセスの中で さまざまな付加価値をプラスする

2013年7月、「バリュー・ネットワーキング」構想が始動しました。国内外のネットワーク革新により、物流を「コスト」から「バリューを生み出す手段」に進化させ、ひいては日本経済の成長戦略に寄与する、物流改革に取り組んでいます。独自のIT・LT・FT、そしてコアコンピタンスである全国、アジアのラストワンマイルネットワークをシームレスに融合させ、物流のスピード、コスト、品質のすべてを飛躍的に高める新たなソリューションを提供します。

「バリュー・ネットワーキング」構想  
5つの改革エンジン

価値を付加しながら素早くネットワークを結節する  
止めない物流

出荷場所・出荷形態・出荷量を問わない  
クラウド型のネットワーク

世界初  
一貫保冷・国際小口輸送ネットワーク

送り手、受け手が共有できる  
物流の見える化

受け手、送り手双方の視点での物流最適化  
デマンド・チェーン視点



### ビジネスモデルから生み出されるバリュー

スピードアップ



ローコスト



高品質

国内外を問わず在庫・出荷場所を選ばない。  
スピード・品質が向上しても、コストは増えない。

災害などのリスク対策の観点から在庫を分散しても、総在庫が増えない。

自前での過大な物流・システム投資が必要ない。

鮮度の高い国際保冷輸送がローコストで利用できる。

高付加価値ビジネスモデルの創出

アジア展開

企業向け物流の拡大

地域密着・生活支援

ノンデリバリー事業

IT

LT

FT

IT : Information Technology

LT : Logistics Technology

FT : Financial Settlement Technology



デリバリー事業

宅急便を軸にした全国、アジアのラストワンマイルネットワーク



# 進化するネットワーク。 日本国内、そしてアジアに広がる 「バリュー・ネットワーク」

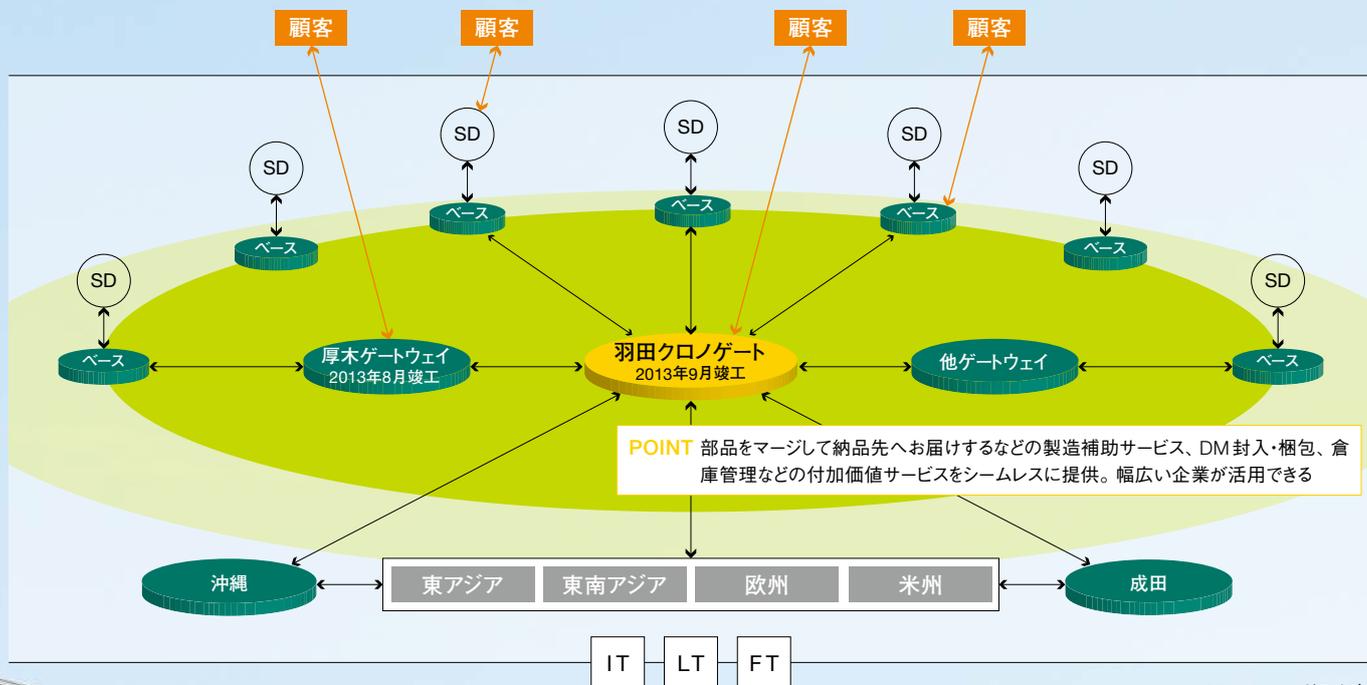
物流を「バリューを生み出す手段」に変えるための挑戦は、「羽田クロノゲート」建設のための土地を取得した2007年から始まりました。アジアにおける宅急便ネットワークの構築、アジアと日本を結節する総合物流ターミナル「羽田クロノゲート」の建設、国内主要都市間の当日配達を実現する「ゲートウェイ」ターミナルの新設、アジアへの翌日配達を実現する沖縄国際物流ハブの本格稼働という4つのネットワーク革新を同時に推進。これらに圧倒的な競争力を誇る宅急便ネットワークを融合させることで、かつてないスピードと付加価値を持った物流をローコスト、かつ場所を選ばないクラウドのように提供することができます。4つのネットワークは、2016年9月の「中部ゲートウェイ」、2017年秋の「関西ゲートウェイ」の竣工により、関東・中部・関西のネットワークが構築され、さらに

進化します。今後は、沖縄国際物流ハブを核としたアジアのネットワークと融合し、さらに領域を拡大していきます。国内外問わず、在庫・出荷の場所も選ぶ必要がありません。小口でも最寄りの宅急便拠点に商品を預ければ、そこがシームレスな物流ネットワークの入り口となります。このため、より消費地や納品先に近い場所に在庫を分散しても総在庫量が増えない「在庫のクラウド化」が実現できます。

また物の流れを止めることなく、組み立てやマージ、メンテナンスなどを通じて商品に付加価値を持たせることもできます。なおかつそれらのソリューションは、事業規模も業種も問わず、幅広い企業が活用できます。

## 「バリュー・ネットワーク」構想全体像

**POINT** ヤマトグループのネットワークをプラットフォームとして、不特定多数のお客様が利用可能



SD：セールスドライバー  
IT：Information Technology  
LT：Logistics Technology  
FT：Financial Settlement Technology



## Case Study: 「バリュー・ネットワーキング」構想に基づく高付加価値サービス事例

ネスレネスプレッソ株式会社様

### 物流と修理業務の一体的提供により、ユーザー満足度を大きく改善

本格的なエスプレッソコーヒーが楽しめるプレミアムブランド「ネスプレッソ」。その手軽さとプレミアムな味が評判を呼び、近年、日本国内でも愛好者が急速に増えています。その一方で、販売の急増に比例して、修理件数も増加。修理にかかる輸送コストも増加。加えて、修理センターが郊外にあり、修理要員の人材確保の面でも課題がありました。

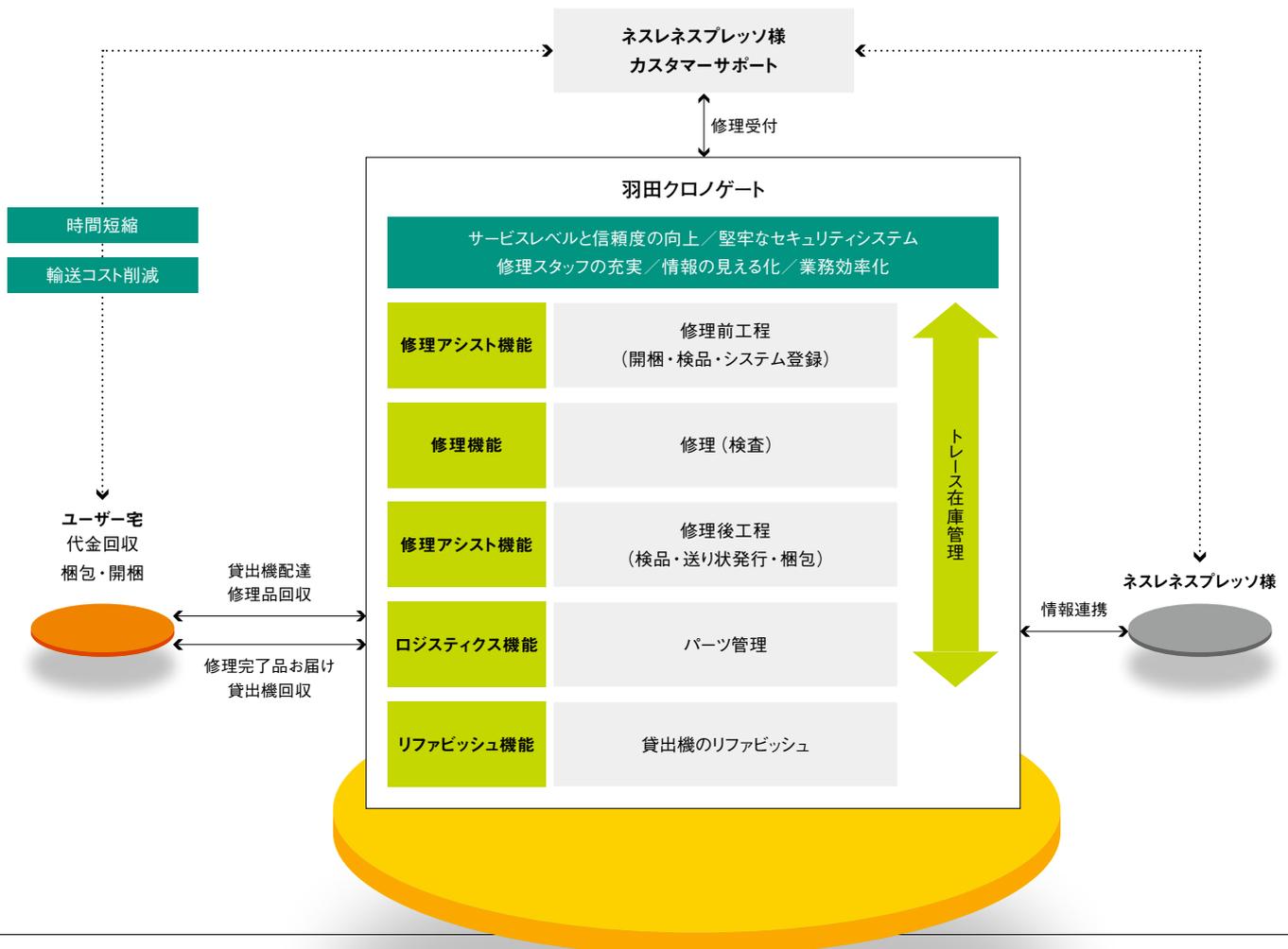
ネスプレッソを販売するネスレネスプレッソ様は、課題解決に向け、当社グループが提供するメンテナンスサポートサービスに着目。羽田クロノゲートの完成を機に、修理センターを羽田クロノゲート内に移管し、これまでも委託していた回収と配達業務に加えて、修理業務も当社グループに委託。これにより、各ご家庭からの修

理品の回収、修理、修理完了品の配達までをヤマトグループにトータルアウトソーシングする体制を構築しました。

#### 「ネスレネスプレッソ様からのコメント」

修理センターとターミナルを行き来する拠点間輸送がなくなり、平均1日以上のリードタイム短縮と輸送コスト削減を同時に実現することができました。さらに、月次実績データのタイムリーな報告とそれによる対応の迅速化、業務運用システム活用による人的ミスの削減、管理担当者との綿密なコミュニケーションによる業務スピードの向上など、リードタイム短縮以外の改善もみられました。これらの改善の結果、ユーザーからの修理に関する苦情件数は、2年連続で前年比50%以上の削減を達成しています。

#### ネスプレッソのメンテナンスモデル



## Case Study: アジアでのプレゼンス拡大に向けた挑戦

### 沖縄「サザンゲート」稼働

## アジア各地域へのスピード輸送と付加価値機能の提供を実現

アジア各地域の経済成長と市場拡大により物流のボーダレス化が進み、国際物流をより速く、より高品質に、かつローコストで展開したい、また海外向けに出荷する製品の総在庫量を圧縮したいというニーズはますます増大しています。これらのニーズに応えるべく、アジアの戦略的物流拠点である沖縄にて2013年8月より国際ロジスティクスセンターを活用してきました。2015年11月には、沖縄グローバルロジスティクスセンター「サザンゲート」が稼働

を開始し、機能をさらに進化させました。

サザンゲートは、沖縄の優位性を活かしながら、従来の「総在庫量のマネジメントによる競争力の強化とコスト抑制」という価値に加え、新たに「充填」、「キitting」、「修理・メンテナンス」、「マージ」といった従来なかった付加価値機能を提供することでボーダレスに「止めない物流」を実現し、お客様の国際競争力の強化を支援します。

### アジア各地域へのスピード輸送の鍵を握るサザンゲート

#### 午前中に、アジア主要都市へ

沖縄3:35 → 上海4:35

沖縄5:10 → 香港6:40

沖縄6:55 → 台北7:20

沖縄5:30 → シンガポール9:30

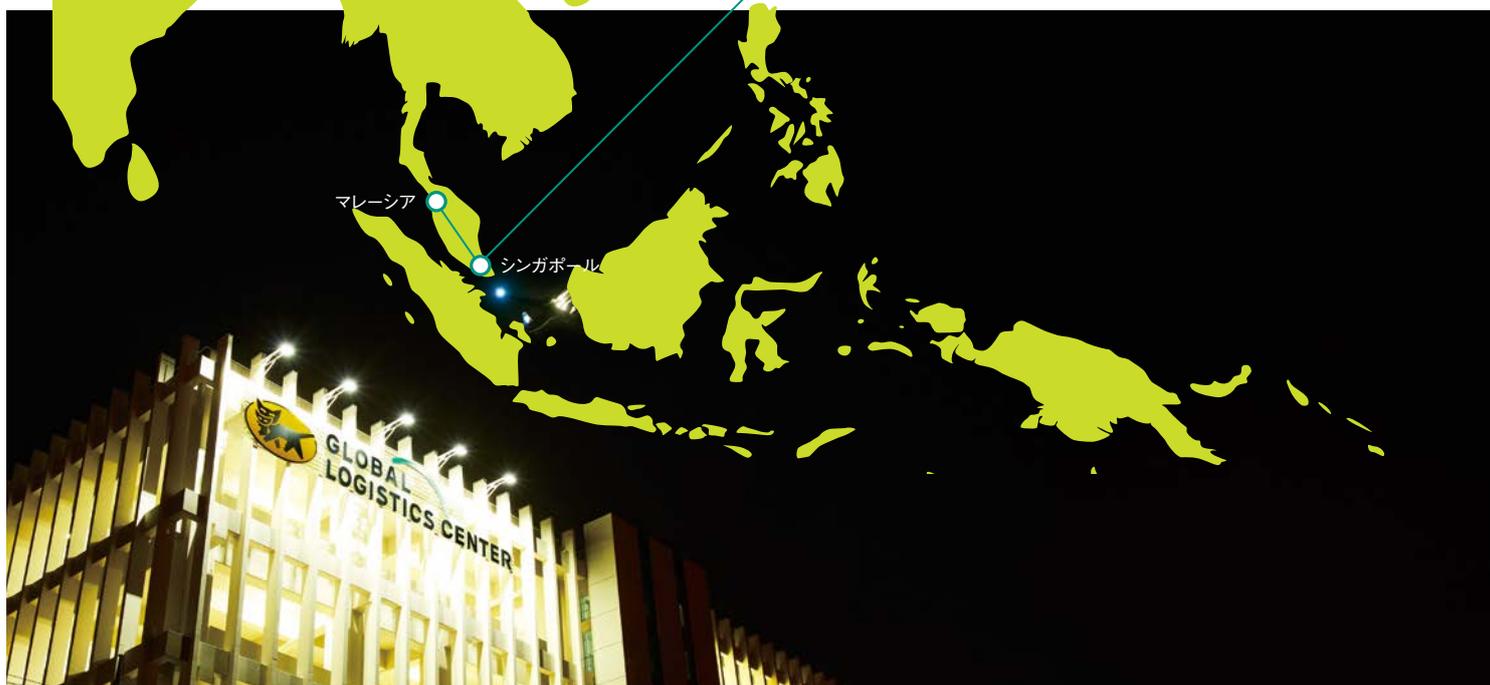
上海  
香港  
台湾

#### 沖縄の優位性

- ・那覇空港や沖縄国際貨物ハブでは24時間通関や深夜の離発着が可能
- ・アジア主要都市へ短時間でアクセスできる好立地
- ・国内向けにも充実した路線網（国内線路線本数:国内第2位）
- ・沖縄県が指定する国際物流拠点産業集積地域内では、各種税金が優遇

約4時間圏内

マレーシア  
シンガポール



## アジアで広がる「国際クール宅急便」

国際間の一貫保冷輸送の実現と、  
日本の農水産品の販路拡大に寄与

日本全国、荷物1個から発送でき、日本の旬の食材を新鮮なまま、アジアへ最短翌日でお届けする、国際間の一貫保冷小口輸送サービス「国際クール宅急便」。24時間通関が行える沖縄国際物流ハブを活用した国際間のスピーディーな輸送により、最短で翌々日の午前中から、展開地域におけるヤマトのセールスドライバーが各店舗やご自宅へお届けします。日本の事業者にとっては、日本農水産品や日本食の需要が高まるアジアへ日々手軽に発送でき、ビジネスチャンスは大きく広がります。ヤマトグループは全国の自治体とも連携し、海外の飲食店と日本各地の生産者や事業者を結び付け、日本の農水産品の販路を拡大する取組みも加速しています。

2013年10月の香港でのサービス開始を皮切りに、2015年3月に台湾、2015年7月にシンガポール、2016年3月にマレーシアと展開地域を次々と広げてきました。引き続き、サービスの拡大に取り組んでいくほか、展開地域でのお届け範囲の拡大や、日本を含めた宅急

便展開地域同士の荷物の動きの活性化にも注力していきます。また、2016年3月には、保冷宅配サービスの国際規格策定を目指し、英国規格協会の日本法人与契約を締結し、取組みを開始しました。

## 国際クール宅急便展開地域



## マレーシア宅配大手 GD Express Carrier Bhd. と提携

ASEAN における  
小口輸送ネットワーク構築を加速

当社グループは、2010年よりアジア各地に宅急便サービスを展開し、アジア地域で小口輸送ネットワークとロジスティクス、フォワーディングを一体化した高品質・高付加価値な物流サービスの提供に取り組んできました。このアジア戦略を加速する一環として、2016年1月、マレーシア宅配大手 GD Express Carrier Bhd. (以下、GDEX 社) と業務・資本提携しました。

GDEX 社は、マレーシア証券取引所に上場する、マレーシア宅配市場で売上シェア第2位の運送事業会社です。GDEX 社はマレーシア全土のデリバリーネットワークを保有しており、業界トップクラスの高い品質と利益率を誇っています。また、マレーシア国内の企業間の小口配送に強みを持っており、近年は同業他社と比較し著しい成長を遂げています。このような強固な事業基盤に、ヤマトグループが持つ強みを組み合わせ、両社の競争力とプレ

ゼンスを高めていく考えです。今後とも、ASEAN 域内での高付加価値小口輸送ネットワークを拡充していきます。



企業名：GD Express Carrier Bhd.

本社：マレーシア

事業：宅配事業およびそれに関連する事業

特徴：マレーシア国内に193の拠点ネットワークを構築。  
578台のトラックと2,700名以上のスタッフを保有  
(2015年6月期)

出典：GDEX社HPより当社作成

